

(3) 第2-A分科会議

- 司 会：釜山広域市政策開発室長 金澄均博士
- 議 長：日本 鹿児島市 赤崎義則市長
- 参加都市：バンコク、広州、鹿児島、熊本、マニラ、
宮崎、長崎、釜山、上海（9都市）
※ ウラジオストック(オブザーバー)

～～ 司 会 ～～～

ただ今より第2-A分科会を始めます。第2-A分科会の主題は、観光産業の育成案で、バンコク市、広州市、鹿児島市、熊本市、マニラ市、宮崎市、長崎市、釜山市、上海市が参加して下さい、ウラジオストック市がオブザーバーとして参加して下さいます。

では、分科会の進め方について申し上げます。まず、各都市別に主題に関する事例発表があります。各都市の発表が終わった後、自由討論をし、最後に分科会の討論内容をまとめ、終了いたします。

次は、本分科会の座長選出についてです。アジア・太平洋都市サミット事務局で事前に協議した結果、鹿児島市の赤崎義則市長が座長を勤めて下さると承諾して下さいました。異議がないようでしたら、拍手で歓迎して下さい。

鹿児島市長、お願いいたします。

○ 赤崎義則 鹿児島市長

皆様方おはようございます。鹿児島市長の赤崎義則と申します。

本日の分科会の座長を勤させて頂くことになりました。会議の進行が円滑に行われますよう皆様方のご協力をお願い申し上げます。また、本分科会での討議がアジア・太平洋地域各都市の持続的な発展につながることを期待しております。

では、まず参加者の皆様の自己紹介から始めます。恐れ入りますが私の右側にいらっしゃるバンコク市から順次自己紹介をお願いします。

よろしく申し上げます。

***** 参加者の 自己 紹介 *****

○ 座長

— 皆様方、ありがとうございました。

では、事例発表に移らせていただきます。事例発表は、進行上私の方から先に発表させて頂きたいと存じます。その後アルファベット順に発表して頂きたいと思います。なお、質問などにつきましては、自由討議の際にまとめてお受けをいたしたいと思いますのでよろしくお願い致します。では、鹿児島市の発表を致します。

[鹿児島市]

○ 市長 赤崎義則

鹿児島市は、卸小売業や観光サービス業などを中心とする第三次産業が8割を占めています。

私は、経済波及効果の大きい観光を総合産業として位置づけ、1988年を観光創造元年として、新しい観光を創造することを市政の重要施策として、大きな力を注いできました。

今回のテーマは、「環境」をキーワードに、「観光産業の育成方案」となっておりますが、私は、都市の環境に調和した観光の育成についての取り組みを中心に述べたいと思います。

鹿児島市は、古くから日本における海外文化移入の窓口として発展してきましたが、今では、人口55万人を擁する南九州における中枢都市であります。

そして、豊かな歴史、文化、温泉、自然に恵まれた国際観光保養都市であります。

観光都市鹿児島が最も誇るものは、雄大で美しい自然であります。

その代表的なものが、市街地の前にある世界有数の活火山桜島であります。東京湾と同じ面積を持ち、波静かで透き通るようなきれいな海水を湛える錦江湾に浮かんだ桜島は、一目で人々を魅了しますが、55万都市と接するように、このような活火山を持つ都市は世界にその例はありません。

その美しさは、正に一幅の絵のようで世界第一級の景観だと思います。

桜島は、生きている地球の鼓動が伝わってくる活火山であります。本市においては、この桜島の息づかいを観光客に体感していただくために、1989年に桜島の裾野に広がる広大な溶岩原のど真ん中に溶岩展望所を建設しました。

この展望所の建設に当たっては、建設材料の殆どに溶岩材を使用するなど、自然の溶岩景観を損なわないように配慮しましたが、今も噴煙を上げる桜島の峰が展望所の眼前に迫る風景は、人々を寄せつけない自然の偉大さを見せつけてくれます。

もう一つの自然の観光資源は、錦江湾であります。市街地に接する形で、これほど澄みきった海があることは、私共の誇りであり、又かけがえのない自然財産であります。

私は、この錦江湾のすばらしさを活かして「海を活かしたまちづくり」「海と共に栄えるまちづくり」を21世紀における市政の基本目標に掲げています。

この様な錦江湾のすばらしさを市民や観光客に伝えたいと考え、1997年に、「かごしま水族館」をウォーターフロントに建設しました。

私は、これまでのような見せる水族館ではなく、人々に日本の南の海のロマンとそこに棲む生き物の神秘性を演出し、海の環境を守ることをテーマにした水族館にしました。

このことは、人々の大きな共感を得て、オープン後僅か2年で200万人の方々に入館していただきました。

また、錦江湾と人が親しむイベントも数多く開催しております。中でも美しいヨットが錦江湾を疾走する鹿児島カップ火山めぐりヨットレースには、遠く海外からも参加し、海の向こうの桜島の沿岸から本市の磯海水浴場までの4キロメートルを泳ぎ切る桜島・錦江湾横断遠泳大会には、国内はもとより遠くヨーロッパからも参加され、千人近くの参加者を数えています。時には、イルカが泳ぎ、澄みきった海を泳ぐ快感は、きっと環境保全の大切さを教えてくれるのではないかと思います。

桜島の自然の営みが恵んでくれたものに豊富な温泉があります。本市には、市内に約230ヶ所の温泉源があり、市内にある銭湯はすべて温泉であり、殆どのホテルでも温泉が楽しめ、観光客は「温泉天国かごしま市」を謳歌しています。

また、温泉は、気分をリラックスさせるだけではなく、健康づくりにも大きな効果が認められており、昨年、本市が建設した「かごしま温泉健康プラザ」は、毎日300人を超す人々で賑わっています。

1990年に行った鹿児島の旅をどんな旅にしたいかというアンケートによると、第1位は自然・風景を楽しむ旅を挙げ、第2位は温泉を楽しむ旅となっています。

もう一つの鹿児島ならではの観光資源は、豊かな歴史であり、独特の文化であります。鹿児島は、島津藩700年の城下町として古くから栄えてきました。島津藩は、徳川幕府にとって、最大の外様大名でありました。また、鹿児島の人々は近代日本の幕明けをつくりました。

この様なことから、鹿児島には、独自の文化が創り出され、豊かな歴史が今も街角に息づいています。この歴史と文化を体感し、鹿児島の個性と魅力を満喫していただくことが鹿児島ならではの観光になるのではないかと思います。

今、環境問題が地球レベルでクローズアップされております。観光活動や観光開発によって生じる環境への負荷をできるだけ抑制することが求められていると思います。

我が国においては、開発によって建設された各地のテーマパークや観光施設が軒並みに経営不況に喘いでいます。本市においては、テーマパークやこれに類する観光施設は一つもありません。

それにも拘らず、観光客数は年間約820万人を数え、年々増加していることに思いを致すと、本市がこれまで堅持してきた環境保持に配慮し、自然・文化・歴史を基礎にした観光開発の方向は時代を先取りした正しい方策であったと自負しています。

また、本市では、近年、環境にやさしい交通機関として脚光を浴びている路面電車が運行されており、本市においては、河川のセンターポール化によって快適な都市景観を作りだすなど、観光資源としての見直しを進めてきて、多くの観光客や市民の方々に利用して頂いております。

現在、我が国は少子高齢化が急速に進んでいます。2015年をピークに人口は減少に転じ、100年後には、現在の人口は半減することが予測されています。

絶対人口が減少する時代に地域の活性化を持続するためには、交流人口を増加させなければなりません。その役割を担うのが観光産業であります。観光産業こそ、都市活性化の大きな鍵であると思います。

21世紀は、すべての都市が観光産業の育成、発展を最大目標にした施策を展開することは間違いないことだと思います。

その場合、環境問題とのバランスを考えることが私共に課せられた最大の命題であると思います。

鹿児島が誇る自然環境を基盤に、桜島の熱いエネルギーと、温泉のぬくもりと、人々の温かい心で世界を人々を迎えたいと念じております。

○ 座長

ありがとうございました。次は、バンコク市にお願いします。

[バンコク市]

○ 副室長 ナサノン・サビシン

観光産業の育成について、タイの事例を発表します。

急成長をみせる観光産業は、将来的には多くの国にとって金の卵となる可能性が大であると予測されます。この予測は特にアジア・太平洋地域の多くの国々に該当すると思われます。近

年の交通、通信の急速な発展、そして多くの国における国民所得の増加により、先進国、新興工業国の国民は、共に近隣、遠方を問わず外国旅行に強い関心を抱き、また実際に、その旅行が可能となっています。タイ国政府観光庁によると、1998年にタイを訪れた旅行者数は、予想の772万人を若干上回る776万人でした。1999年1月から9月の間に、タイを訪れた観光客数は1.4%増加しましたが、これは西欧諸国の多くが堅実な成長を遂げ、またアジア市場が回復したことによるものです。しかし、旅行者の平均滞在日数は8.4日から8.1日へと僅かながら減少傾向にあります。旅行目的の88%は、娯楽、休暇、レクリエーション等の観光で、その他が12%となっています。観光客の主要支出項目の一つは、土産物等のショッピングとなっています。外国人観光客は、タイ国内での支出総額の37%をショッピング、特に織物や宝石の購入にあてています。

今日、観光事業の重要性を疑う者はいないでしょう。観光事業こそ収入の道を開き、低失業率の実現と農村部に対する富の分配の可能性を示唆します。しかし他方、観光事業はタイにとってプラスとマイナス両方の影響を及ぼす可能性があります。例えば、起り得る環境劣化、文化・社会的価値観の保存問題、国際関係・理解の発展、人的資源の拡大などです。

外国人旅行者数の継続的増加と観光収入の増加に、観光産業の振興は必要不可欠です。従来からの名所旧跡、天然の景観への依存には限界があります。観光客個々のニーズと旅行に対する期待は実に多岐にわたっているのです。

観光事業振興の成功には、いくつかの要素が共通項として見られます。

第1の要素として、自由行動を好む観光客、特に増加傾向の単独旅行を好む観光客にとって、便利な都市交通体系は必要不可欠なものとなってきました。その意味で、1999年12月5日に過密都市バンコクに開通した高架鉄道(スカイ・トレイン)はバンコク市の観光振興に寄与するものです。高架鉄道の利用で、観光客は限られた時間内に、より多くの文化や名所旧跡を訪れることが可能となりました。また、この効率的な新交通システムにより、観光客の交通費の負担は軽くなり、バンコクをより魅力的な観光地とすることでしょう。更に、高架鉄道を利用することにより、観光客は以前なら目に出来なかったバンコク市のユニークな姿を見ることができます。高層ビル群が物語るバンコクの経済的繁栄、そしてタイに深く根付く文化や伝統との鮮明なコントラストが作り出す景観です。

第2の要素は、観光産業や特産品の開発及び振興を、観光事業当局、地方自治体、民間、非政府各団体、地域社会など全ての関係当事者間の戦略的結束の強化に依って推進することです。各当事者は、観光産業の振興について、独自の知見、見解、展望を有しています。地方自治体と地域社会は、潜在的な旅行者の誘因材料について優れた知識を有する可能性があります。区域内には、当該地域社会、地方自治体の者だけが知っている「穴場的」観光名所があると考え

られます。例えば、プラ・ナコーンの観光事業関係者は、その地域と周囲の環境が、芸術、文化的パフォーマンスの振興に適していることを知っています。地方自治体を管轄する部署であるバンコク行政観光局が同地域を調査し、タイ国政府観光庁(TAT)、市警、当局およびその他の関係当事者と共同で観光活動を企画し、「EU遊歩道シアター・フェスティバル」などのイベント活動の開発、促進を行っています。各当事者は、この行事の成功へ向けての義務と責任を負っています。学校、美術学校及び大学は伝統的なタイ舞踊の発表や無料の似顔絵スケッチとアートパフォーマンスを行いました。このような行事の安全や警備面では、市警が活躍しました。また、施設や設備及びスタッフの提供は郡が行いました。バンコク行政観光局は、このイベントの広報活動に努め、宣伝用パンフレットと行事プログラムを作成しました。地域住民側は、自宅前の飾り付けなどを行い、清潔できれいに保つこと、遊歩道シアター・フェスティバル期間中は自家用車での移動を自粛すること、観光客には親切に接することを申し合わせました。

第3の要素として、国際的イベントの誘致が観光事業振興成功の鍵となっています。バンコク行政観光局は二段構えの戦略を推進しています。それは、一方でタイの地方行事への国際的認知を得ること、他方で国際的な大規模イベントを新たに開発するということです。例として、バンコク行政観光局は、西暦2000年には「王室御座船パレード」、「獅子舞世界選手権大会」、「国際ダンススポーツ大会」、「世界グランプリレガッタヨット競技2000」、その他多くの特別国際イベントを計画しています。

第4の要素として、バンコク市へのコンベンション招聘を強力に促進することが重要となります。そして、バンコク市及びタイ政府は、これらの質的向上を図る必要があります。すなわち、西暦2000年及びそれ以降も、バンコクに会議や展示会を招聘するために、高付加価値見本市や集中的マーケティング・キャンペーンに着手することです。現在、タイ国内には多くの大規模な展示会場が建てられています。一流のコンベンションセンターの中でも特に際立っているのは、高機能多目的の「クイーン・シリキット国際会議場」です。この会議場では、2000年2月の国連貿易開発会議(UNCTAD)の年次会議や多くの海外旅行に関する展示会、コンサート、会議など世界的イベントが数多く行われています。会議場は、急成長を遂げつつある商業及び金融地区の中心部にあり、バンコク市の最高級ホテルへのアクセスも容易です。バンコク市をアジア地域のコンベンションセンターと位置付け、振興を図る基本的要素として、開催や企画運営に関する豊富な経験、最新の施設などを手中にしています。国際会議参加者は、あき時間をぬって観光を楽しむことができるので、会議参加者数の増加は自ずと観光客数の増加となることでしょう。

観光事業振興成功における第5の要素は、観光向けの新商品を開発することです。バンコク

市またタイ国内に現存する観光名所は大変素晴らしく、大部分の観光客は旧来の観光地を繰り返し訪れます。そこで、バンコク行政観光局は、様々なニーズに応じた新しい観光商品開発を目指し、既存の観光アトラクションや資源の編成を行っています。エコ・ツーリズム、スポーツ関連の旅行、価値観重視観光、歴史観光などがその例です。このように、バンコク行政観光局は、永遠に記憶に残るような経験ができるツアーの企画を目指し、また観光客が経済的なツアーを選べるようにしています。例えば、バンコク市内の歴史や文化地区における運河ルート、自転車ルート開発などがあります。バンコクのノイ運河ツアーでは、旅行者は運河沿いの伝統的なタイの生活様式を目の当りにすることができます。また、このツアーの旅行者は、ラマ4世(1821-1868)治世下の運河沿いの古代寺院伝統的タイ様式家屋、美しく花をつけた繁み、果樹園など、1885年に英国外交官ジョン・バウリング卿が、その翌年には米国大使タウンゼンド・ハリス氏が運河の旅の中に描写した通りの光景を目にすることができます。

第6の要素としては、新規旅行者及びリピーターをタイに誘致する上で、旅行者のタイ国内での権利を保証することが極めて重要だということです。旅行者の基本的人権には、旅行者自身や所持品の安全と保安が含まれます。タイ政府と地方自治体の担当部署は、不正な別料金体系、価格の釣り上げ、窃盗、スリ、詐欺の防止のため、強力かつ公平に法を執行することが不可欠です。更に、取締機関であるツーリストポリス、市警及び警察官は、観光客向けに迅速かつ簡便な苦情届け出システムの向上に努める必要があります。また、旅行者の安全を高める上で各観光事務所が果たす役割は極めて大きいといえます。各観光事務所は、観光客に対して商品の品質と適正価格が保証されている安全なショッピング地域を提示し、同時に潜在的な危険に対し注意を促すよう努めなければなりません。

最後の要素として、各国は麻薬、売春婦（両性）、武器などを含む原料、製品等の違法取引の取締りや阻止を行い、厳しく法を執行しなくてはなりません。こうした違法取引は、我がタイ王国のイメージを悪化させることに加えて、地域社会自体に麻薬中毒、殺人、強盗などの悪影響を及ぼします。

本レポートの締めくくりとして、観光産業の影響は、経済分野のみならず、社会、文化、環境にまで及ぶことを申し上げたいと思います。よって、最大の効果をもたらし、負の影響を最小にする観光産業の振興のため、各都市は、商品やサービスの需要パターンの変化に対応し、合わせて、様々な革新的戦略を積極的に策定し、実施する必要があるでしょう。

〇 座 長

バンコク市のナサノン・サビシン行政副室長、ありがとうございます。

では、広州市、お願いします。

[広州市]

○ 副市長 王守初

皆様こんにちは。私は広州市副市長の王守初です。広州市人民政府を代表して発表させていただきます。

私の発表内容は、「広州 観光業の重要性と開発計画」です。

今日の発表の統計(数字)は、本来の内容と少し違います。今日発表で申し上げる数字が最近の資料による統計です。

観光産業は、現在、世界の経済活動のうち最も活力のある産業であり、21世紀の産業と呼ばれています。中国でも、改革開放以来、観光産業の発展は、国が重視し支持するところとなり、その地位は一段と向上しました。現在、22の省・市・自治区が観光産業を地場経済発展の基幹産業、先導産業とみなしています。広州においても、観光産業は、行政の重視と支持のもと、急速な発展をとげている産業の一つであり、実際に、豊かな観光資源は経済効果を上げはじめ、いまや相当規模の産業に成長しました。受け入れ観光客数、外貨収入、観光産業総収入及びその伸びといった主要な指標において、本市は長年中国の観光都市のトップクラスに位置しています。広州は、中国の歴史文化名城24都市の一つであり、優秀な観光都市の先駆けの一つでもあります。

私は、次の3点を皆様に申し上げたいと思います。

一つ目は、行政が観光産業に力を入れることは、本市の観光産業の速やかな発展のための重要な要素だということです。

1994年3月、市は「観光産業発展を加速するための決定」を定め、広州市の国民経済における観光産業の重要性を明確にしました。その後制定された「広州市国民経済と社会発展第九次五年計画及び2010年遠景目標綱要」の中では、さらに踏み込んで、観光産業は広州の国民経済に大きくかかわる六大基幹産業の一つであると明確化しました。本市は、1995年より優秀観光都市建設運動を展開し、本市の観光環境の改善に努めています。特に、昨年からは、都市イメージの具現化につながる公共工事、道路拡張、交通機関の整備を重点的に推進し、また「青山、碧水、藍天」と名付けた生態環境保護を実施して、観光都市の基盤と自然の環境を整備し、観光産業の発展に寄与する条件を整えました。観光地の整備では、民間を発動・援助して投資力を強化し、ここ数年で、民間や外国資本と共同して42億元の資金を投入し、特色ある観光プロジェクトを建設・改造しました。外資によって建設された「海洋館」、農民が資金を集めて建設した「航天奇観」、個人投資によって建設された「香江野生動物世界」などのテーマパークは、観光産業に新たな魅力と経済効果をもたらしました。

二つ目は、観光産業の発展は、社会の全面的進歩を推進する効果をもたらしたということです。

ここ数年、広州の観光産業は拡大化を続け、発展の水準も日増しに高まり、「食・泊・行・娯・買・遊」の六大要素が足並みを揃えて発展しています。1999年現在、広州には観光ホテル1,580軒以上のうち、星級(星の数でランクを示したホテルをいう。主に中高級ホテル)ホテル98軒、その内高級ホテルは84軒、旅行社120社、一定の規模と収容能力を持つ観光地75か所、各国料理の飲食店(レストランから屋台まで)21,000軒以上があります。本市の観光産業では、既に404,600人が観光に従事しており、固定資産総額は346億8500万元に達し、1999年に広州市内宿泊旅行者数が述べ2115万9200人、観光業による外貨収入11億6700万ドル以上、営業収入363億4600万元以上の総合生産能力を誇っています。観光産業の発展は、市場の開拓、内需拡大、そして経済成長の推進に看過できない役割を果たしました。1999年の広州の観光産業成長高は111億9100万元に達しており、これは全市国内生産(GDP)の5.42%に相当します。観光産業が本市の経済の中で、最も活力ある新興産業、新たな成長点となりつつあることは、これらの事実によって証明されています。また、そのことが人材・情報・物資の流れをもたらし、国内外の投資を招き、対外開放を推進し、経済・文化・科学技術の対外的交流と合作を拡大し、都市建設を促進して都市の知名度を高めました。

三つ目は、今後の広州の観光産業発展の考え方についてです。

広州の観光産業がさらなる発展をみるためには、以下のことを確実に行う必要があります。

(1) 「大産業、大市場、大旅行」の方針を採り、広州の観光産業の経済構造を整備強化します。まず、観光産業を整備強化し、第三次産業における牽引車的役割を発揮させ、業種の枠組みを越えた連合を進めて行きます。例えば、農業と連携させ農業エコツーリズム、グリーンツーリズムを展開する、海洋水産部門と連携させ海洋エコツーリズム、フィッシング、砂浜スポーツ、海水浴などを開発する、林業部門と共同活動して森林資源を利用した避暑、レジャー、キャンプ、探検などを開発する、商業部門と連携させ広州ショッピングツアーを行う、工業部門と共同で「一日労働者体験ツアー」「鋼鉄は如何に鍛えられるか見学ツアー」などを開発する、文化、教育部門と連携させ国情教育や中国近代史史跡ツアーを行う、交通運輸部門と共にドライブ旅行を開発するなど、新しい観光経済産業体系を作り上げます。

第二に、観光資源を整備強化し、広州の特色を生かした観光商品を発展させます。広州の二千年の歴史や嶺南文化を現代都市文化に融合させた観光資源をパッケージにして、「広州色」を打ち出した観光商品を作ります。例えば、南越王宮署、南越王墓、鎮海楼、南海神廟、黄埔軍官学校、中山祈念堂などを回る文物史跡ツアーや、雲台花園、彫塑公園、海洋館、香江野生動物世界、中信広場、天河体育中心などのテーマパーク群、そして現代文化観光ポイントを回る現代都市景観ツアー、さらには「白雲松濤、珠水晴波、紅陵旭日、鷺潭印月、黄埔雲檣」など、羊城・広州ならではの景観を誇る珠江旅情ツアーなどです。また「食は広州にあり」「ショッ

ピング天国」の魅力をも十分に生かした美食通りや専門店街などの建設、観光客を呼べる「老舗」の保護や復活などによって、ショッピングツアーや羊城美食ツアーを展開します。さらに、迎春花市、竜舟まつり、荔枝まつりなどの伝統的な祭や、元旦観光花車パレード、広州国際観光展覧会、広州国際美食祭、芸術祭、フェスティバルなど市民や観光客に人気のイベントを今後も開催して、多種多様な資源の魅力をも互いに生かした広州発観光商品の新体系を形成していきます。

第三に、観光市場を整備強化し、広州を中心とする一大観光市場を開拓することです。広州は、中国華南地区の中心都市であり、観光市場の輻射範囲が比較的広い都市です。特に、香港・マカオに隣接し東南アジアに開かれており、国際市場の開拓という点で非常に有利となっています。中国の優秀観光都市の先駆けである広州を、一つのまとまった観光商品として海外市場にアピールし、宣伝・販売促進に力を入れて海外観光客の安定的増加を確保します。さらに、交通・商業の中心である省都・広州という長所を生かして、その中心都市にふさわしい貢献を行います。それは、広州とその周辺都市及び珠江デルタ地区が、香港・マカオと連携・共同活動し、「広域観光圏」という概念を樹立して、広域観光発展の枠組みをつくり、観光客の双方向流動、資源の相互補完、共同販売促進宣伝、人材の共同育成、市場利益の共同享受などの目的を達成することです。

(2) 観光という環境を今一步改善し、観光都市・広州の新たなイメージを確立します。

第一に、都市建設を加速し、文化的で美しく快適な都市環境を作り上げて、観光都市広州のイメージを確立します。

第二に、都市管理能力をより一層高めて、町並みや景観、環境衛生、交通秩序、公園緑化そして環境保護などの面で、新たな成果を上げるよう努力します。広州を「衛生都市」、「文明都市」そして「最高の観光都市」とするよう積極的にアプローチしていきます。

第三に、法律の適用によって観光産業の管理を強化して、サービスの質を向上させ、その健全で秩序ある発展を保障します。

第四に、人材育成や教育に力を入れ、一人一人の素質を引き上げ、質の高い、業務に精通した経営能力のある人材群を養成します。

私たちは、世界各国の皆様が広州市を訪れて下さることを願います。ぜひいらして、観光地をご覧になり、観光の日の祈念祭にも参加して頂き、広州の美味しいお料理も召し上がって、観光産業開発に関する考えと経験、そして、情報を分かち合いたいです。アジア・太平洋地域の観光産業の発展と各国の経済発展、社会発展、人類の幸せのため、一緒に努力することを願います。ありがとうございます。

〇 座長

広州市の王守初副市長、ありがとうございます。次は、熊本市にお願いいたします。どうぞ。

【熊本市】

〇 市長 三角保之

熊本市でございます。この分科会に、日本から4つの都市が参加しています。鹿児島、宮崎、長崎は、観光の比重が大変高い都市でもあります。また、港湾と港を中心に、経済が振興し、或は、早い時期から文化が振興し、大変進んでいる都市です。

しかし、これに比べ熊本市は農業圏と言われ、農業の生産高が日本において非常に高い都市です。また、自然・歴史・文化、そして水と食を大切に健康の方を中心に力を入れています。昨今、観光行政を進める中で、こういった我々の持つ特色に結び付けた観光をということで目下今日お邪魔しております三つの都市の方々に見習って勉強している途中ですので、お許しを頂きながら聞いて頂きたいと思っております。観光産業の育成案という主題で発表させていただきます。

熊本市の観光は、「森と水の都」と呼ばれるように、豊かな自然環境と地域文化に恵まれている熊本市は、400年の歴史を持つ熊本城や水前寺成趣園(封建時代の熊本藩主の庭園)に象徴される歴史都市として、また66万の人口を擁する中核的な都市としての多彩な魅力を有し、毎年多くの観光客が訪れている都市であります。

また、本市は、九州の中央に位置しており、東に「阿蘇くじゅう」、西に「雲仙天草」の二大国立公園を配する地理的利便性を活かし、福岡市、鹿児島市と連携した九州の縦のルート、長崎市、大分市、別府市と連携した九州の横のルートを結ぶ広域観光の要衝としての役割を担っております。

これまで本市では、観光を、所得効果、雇用効果、税収効果など様々な効果が期待できる総合産業として位置づけ、本市財政にも大きく寄与することから、固有の歴史・文化を活かし積極的に観光誘致に取り組んでいるところであります。

近年、余暇時間の増大や社会構造の変化とともに観光ニーズは多様化し旅行形態も変化してきていることから、歴史・文化遺産を主要な観光資源として展開してきた、本市のこれまでの観光誘致策に加え、現在は、平成9年にオープンした食のテーマパーク「フードパル熊本」を、参加体験型の新たな観光資源として捉え広報宣伝活動を進めるとともに、アウトドアブームや健康志向の高まりに合わせたグリーンツーリズム型の観光への取組みにも着手しているところであります。

一方、人、物、情報の総合的な交流の場であり、複合的な都市経営戦略であるコンベンション需要の増加にも着目し、1991年には熊本県及び経済界の協力により「財団法人熊本国際コンベンション協会」を設立し、さらに、1994年の「国際会議観光都市」に指定されたのを契機に、コンベンション誘致活動の一層の強化を図っております。

観光産業は、21世紀の基幹産業としてそのウエイトは益々高まり、地域経済の活性化、都市の再開発、文化の向上、国際交流の促進など広範囲な波及効果を持つものであり、コンベンションとも密接な関わりを持っており、市政の重要な施策の一つとして事業に取り組んでいるところであります。

熊本市の取り組みについて具体的に申し上げますと、第一に、コンベンションの推進による観光産業の育成を上げられます。

会議の誘致、展示会の開催等、人、物、情報の移動を伴うコンベンションは、関連施設の整備や参加者の消費、あるいは、質の高い人的交流により相互理解の増進を促すなど、多大な複合効果をもたらすものであります。

その結果、コンベンションが開催される地域にもたらす経済的・社会的効果は極めて大きく、熊本国際コンベンション協会が行った調査によれば、平成年度に熊本市で開催されたコンベンションの経済波及効果は321億円と推計され、本市の農業生産額に匹敵する金額であり、サービス産業が拡大しつつある国内経済からしましても、コンベンションの誘致・開催は地域活性化とともに観光関連産業育成のための大きな手法となっております。

このようなことから、本市では、他都市よりいち早くコンベンションの効果に着目し、1982年より東京都市圏を中心に誘致活動に取り組んでおり、1991年には「財団法人・熊本国際コンベンション協会」を設立し、誘致及び受け入れ基盤の強化に取り組んできたところです。

また、1994年には、「コンベンション法」が制定されるとともに、「国際会議観光都市」の認定を受け、国際化の進展に対応した国際観光都市づくりを推進しており、同年には、国内及び海外41ヶ国から1,500名の参加者を集め、第15回国際神経放射線学会を本市で開催することができるとともに、国際コンベンションシティとしての展開を図っています。

第二には、熊本城の復元整備による観光産業の育成であります。

本市を代表する観光資源である熊本城は、1960年に主要部分を再建して以来、国内経済の成長とともに団体旅行や修学旅行等を中心に大変な賑わいを見せ、1965年には、今までで最も多い176万人の入園者を記録することができ、この影響を受け本市の観光関連産業が成長した時期でありました。

しかし、近年の観光ニーズの変化とともに長崎県のハウステンボスや北九州市のスペースワールド、宮崎市のシーガイアなどの大規模テーマパークの出現により、名所旧跡を見てまわるだ

けの観光は減少し、熊本城の入園者も年々減少し、1998年には開園以来初めて80万人を割る結果となりました。

このような中、本市では熊本城の築城から400年を迎える2007年を目処に創建当時の姿を取り戻すための復元整備計画を進めており、緑豊かな都市の潤い空間としての環境を壊すことなく、櫓等の建造物の再建はもとより当時の時代空間の演出や体験機能を取り入れるなど、他に類を見ない本物の歴史テーマパークとしての整備を目指しております。

整備完了後には、入園者の滞留時間の増大はもとより本市を訪れる観光客も増加し、本市の観光産業の育成にもつながっていくものと考えております。

第三には、環境を考慮した観光開発です。

近年の都市化の進展から、休日には都市を離れ緑豊かな自然の中で野外レクリエーションを楽しんだり、地域の生活・文化に触れながらのんびりと休日を過ごす、グリーンツーリズム型の観光が年々盛んになってきているようであります。

このような中、本市においても豊富な自然が今なお残る本市西部の山岳地帯である金峰山一帯を、自然との触れ合いの場、環境学習の場、健康づくりの場と位置づけ、ハイキングコースの整備、登山道の整備、長距離自然歩道の利用拠点施設などの整備を進め、さらに、周辺に点在する歴史・文化資源との連携を図り、自然環境との調和も考慮しながら観光地としての整備に取り組んでいるところであります。

終わりになりましたが、本市は、熊本城をシンボルとして育まれてきた市民の豊かな生活文化が街の魅力を醸成している都市であり、独自の歴史や伝統を大切に継承するとともに、新しい時代状況に即応した現代文化も取り入れながら、国際性豊かで創造的なまちづくりに取り組んでまいりました。

そういった面から、農業、自然環境、或は、健康、こういったものと環境を如何に結び付けていくか、そういう所に全力を傾注している所ですのでアジア・太平洋都市の皆様方とスクラムを組み、連携を取りながら環境産業の育成に取り組んでいきたいと思っております。以上でございます。

○ 座長

熊本市の三角保之市長、ありがとうございました。次は、マニラをお願いします。

【マニラ】

○ 市長秘書室長 エンマニエル・シソン

こんにちは。マニラ市からご挨拶申し上げます。

マニラは、観光地として世界の注目を集めるために、他のアジア諸都市としのぎを削っています。アジア諸都市では、それぞれ精魂を傾け育ててきた特徴とイメージがセールスポイントとなっています。例えば、バンコクは仏教寺院の街としての誇りを持つ都市です。言うまでもなく、シンガポールは「インスタント・アジア」であり異文化の坩堝です。最近では、東南アジア全域における芸術センターとしても名乗りをあげています。クアラルンプールは、イスラム教都市であると同時に近代都市でもあります。ジャカルタは、異国情緒豊かなバリ島やボロブドゥル遺跡のあるジョグジャカルタへの玄関口という機能に加えて、港町の原点と歴史を有する都市であることをアピールするために臨海貿易地域として整備が進められています。

一方、マニラは、まずフィリピンから外国へ、または外国から国内への玄関口あるいは中継地として見られています。マニラ自体は、あらためて見るに値するほどの都市ではないと考えられています。このことは、外国人が書いてきた様々なフィリピン旅行案内書に共通していることです。

しかし、マニラの活力溢れる伝統を一瞥し、広大な歴史的資産をひも解き、それを現代マニラの生活に結び付けてみると、たちまち歴史と文化に満ちたこの都市の珠玉の魅力が発見されるでしょう。特に、マニラ中心部が持つ様々な顔、すなわち早い時期から外国と接触し、貿易を行った結果、もたらされた多彩な外国の影響を反映する歴史的象徴や建築物、今に生きる伝統や服飾様式、装飾、緻密な年代ものの装身具や家具、これら過去をしのばせる事物に磨きをかけると、時間の中にかすんでいた過去と現在の繋がりが明らかとなることでしょう。島から島へと旅する人も、浜辺で時を過ごす旅行者も、次の目的地に向かって出発する前に、歴史的スポットに少し足をのばすと、マニラが歴史的にみて興味深い街、東洋と西洋が融合した街であることがすぐに分かり、バケーションを完璧なものにできることでしょう。

フィリピン国内向け観光市場として、マニラが、フィリピンのみならず、アジア地域におけるビジネス、文化、娯楽、ショッピングの中心地としての機能を持つような政策提案がなされています。一方、海外からフィリピン国内各地への玄関口であるということもマニラの特徴といえます。また、マニラは、海外市場に対しても、ビジネス、休暇、コンベンション、ショッピング、文化に興味を持つ団体にとって、東南アジアの文化、娯楽を楽しむ場所としての役割を果たしうるでしょう。

マニラは、1565年から1815年にかけて、ガレオン船貿易の舞台であり主要寄港地でした。ガレオン船は、多数の帆を掲げる巨大船で、スペインとフィリピン双方の職人技術が生み出したものです。毎年、アジアや世界各地の代表的輸出品等を安価で仕入れ、満載でマニラとメキシコを往復しました。商品は、日本の漆器、中国の磁器や絹、モルッカ諸島の香辛料、インドの象

牙製彫像や織物、ペルシャの絨毯など、夥しい数の最高級品でした。

ガレオン船が運んだフィリピン産の商品の割合はわずかでしたが、たいへん価値のある物でした。中国系フィリピン職人が、マニラの工房で象牙を刻んで作った宗教関係の彫像は、今もスペイン語圏の教会に光彩を添えています。

ガレオン船で運ばれた人気のあるフィリピン産貨物は、他にイロコスの綿布、精巧な黄金製の装身具類、家具、刺繍などがあります。これらの商品は、アカプルコで売りさばかれ、そこからスペイン、全西欧社会へと流通していきました。

ガレオン船は、帰途、メキシコの銀を積んでマニラに向かいました。銀は、19世紀まで東アジア全域の主要国際通貨でした。フランス人歴史家ピエール・シャヌウは、このガレオン船貿易を、アジア、アメリカ、ヨーロッパを一つの鎖で結んだ「事実上、地上初の地球規模ネットワーク」と呼んでいます。

以上のような歴史的背景から、まさにガレオン船こそマニラにうってつけのシンボルであり、かつ新しいマニラのイメージを映し出すものといえます。ガレオン船のイメージは、他地域への玄関口である港湾都市マニラの現在のイメージを膨らませるもので、その独特な歴史的趣きを深めるものとなっています。マニラ市には、ガレオン船を彷彿とさせる事物が今も豊富に残っています。

ガレオン船には、力強く見事な絵画的イメージがあります。イロコス木綿の帆に風をはらみながら大洋を進む遠洋定期船ガレオン船は、活力とエネルギーに満ちており、アジアにおける香港のような国際都市のイメージを、17世紀当時のマニラにもたらしていました。ガレオン船は、イロコスの綿織物やピコルのマニラ麻製ロープ作り、タガログ地域の造船および鑄造技術などフィリピン諸地域の最高技術の集大成です。また、ガレオン船には、精巧な金細工の装身具、刺繍、優れた彫刻、家具などフィリピンの最高技術の見本市という側面もあり、その意味では、マニラを極東のショッピングセンターとして印象付けることに寄与したことでしょう。

ガレオン船のイメージは、マニラの2つの特徴をはっきりと示しています。すなわち、熱帯の島々への入り口となる港、そして、湾、川、入り江などから成る水路網であるということです。こうした特徴があるために、マニラの伝統的紋章は、アシカと海の監視塔で構成されています。

特別区(Special Design Districts/SDDs)の将来の開発にあたっては、ガレオン船貿易との関係を明示し、マニラが放つガレオン船のイメージを一層誇示するようなものとする必要があります。今後、区の開発の際は、ロハス大通りとリサール公園のマニラ湾岸地帯を保護するよう行わなければなりません。この湾岸地帯は、マニラが港湾都市であることを強調しています。フィリピンの歴史を物語る現存の遺跡、遺構、特にマニラ中心部で発見されたものには、既に、

観光客や歴史・文化研究者など様々な人々が国の内外から多く訪れています。が、これからは、これらの地域の一層のプロモーションが求められます。パンフレットや種々の資料を利用して、博物館、歴史的建造物、教会、ガレオン船の往時の輸出商品を取扱う店等の強力なPRが肝要です。また、ガレオン船貿易文化と関係のある料理、エンターテインメント、商品と呼び物とするレストラン、諸施設の紹介も必要となります。

観光客が望むのは、自分自身の日常生活の空間とは全く異質な場所を訪れることです。ガレオン船都市マニラの目新しい異国情緒あふれるイメージは、まさに、他のアジア近隣都市から一線を画するものです。外国人観光客市場の開発のために、マニラを「熱帯の島々への歴史の門」として紹介することを目的とした短期計画は、マニラをトランジットまたは最終目的地とする便を運行する航空会社を利用して、単純ではあるが強力な視覚的キャンペーンを行うものです。このような航空会社では、ガレオン船の街マニラを探索し、その歴史の一片を体験しましょうという内容の短い観光PRフィルムを、定期的に機内上映します。また、いずれかの外国都市を選び、お互いに、プロジェクトや歴史的建造物と遺産の修復の資金集めに協力し合う姉妹都市プログラムも実施する必要があります。歴史遺産の修復作業は、実質的に分担して行われます。また、このパートナーシップにより、お互いの都市の文化に焦点を当てた特別な催しや互いの都市の物産展を行うなど、文化交流も行っていきます。

中期計画では、マニラを「熱帯の島々への東西の玄関口」として紹介します。インフラが整い、他の特別区が策定された暁には、マーケティング、パンフレットなどにより、この地域を世界の観光地として大々的に売り出します。広報キャンペーンを効率的に行うため、空港、旅行代理店、官公庁、など、観光客が手軽に観光情報を入手できる適切な場所に観光情報コーナーを常設することを考えています。

この時点までには、インフラ整備を完了させ、キアポ、エスコルタ等様々な地区での文化的な祭りや祝典、世界のどこでも常に多数の観光客を集める観光スポットとなっているチャイナタウンを通して、観光振興を大々的に行うことが可能となるでしょう。最終的には、マニラを「熱帯の島々への玄関およびガレオン船都市」として紹介し、その認知を広めなければなりません。ガレオン船を復元し、長・中期的見地から、マニラ湾のマニラホテル沿い若しくはサウスハーバーに常時停泊させることが理想的です。ガレオン船のレプリカは、海上ショールームとなり、香辛料、薬味、磁器、絨毯、家具、彫刻、宝石、衣服、アクセサリなど、ガレオン船が運んだ商品と類似した商品を販売する専門店を集めます。また、ガレオン船で往時を偲ばせる演劇やコンサートなどの文化行事を定期的に主催したり、開催の場を提供することも考えられます。

マニラには、国家的に重要性が高い諸施設が多数集中しており、国のシンボルとなっていま

す。マニラは政府の所在地であり、フィリピンの一流大学の多数が集中する教育センターでもあります。毎年巡礼者が訪れるいくつかの教会があり、世界の動向やニュースに直に触れることもできます。さらに、マニラ市民の大部分が地方出身者であるため、事実上フィリピン諸地域、またその多様な生活様式の坩堝となっています。こうした背景から、フィリピン人であれば誰もが、首都マニラを一度は訪れなければならないと考えています。最近行われた建国100周年祭により、フィリピン国民の間で歴史への関心が急激に高まっていることは好材料といえるでしょう。

地元民に対してマニラを十分にPRするため、短期、中期、長期の各計画で、様々な教会や博物館など歴史が息づく場所へ観光客を集める対策が取り上げられています。あらゆる年齢、職業、階層の人々を引き付ける魅力があり、実際、マラテ地区はヤッピー（知的専門職に就いている出世志向都会派の25から45歳くらいの人々）に対する集客力があります。また、バーゲン商品の発祥であるマニラ中心部は、目の高い買い物客にも満足してもらえるような品揃えとなっています。都市再開発、再生、パッシング川の浚渫工事、その他の長期的改善を実施することで、更なる呼び物や活動を実現する道が開かれるでしょう。一方、これらにはマニラのトップ100社による支援の下、効果的で大々的なマスコミや情報の提供によるキャンペーンを打つことも必要となるでしょう。

○ 座 長

エンマニュエル・シソン市長秘書室長、ありがとうございます。

次は宮崎市をお願いします。

【宮崎】

○ 市長 津村重光

では、宮崎市のご報告をさせていただきます。

宮崎市は、九州の南東部に位置し、雄大な太平洋に面した、温暖な気候と豊かな自然に恵まれた人口約31万人の中核市であります。

さんさんと輝く太陽と緑豊かな山々、青い海に沿って広がる宮崎は、「太陽と緑の国」とも呼ばれており、こうした自然の恵みをいっぱい受け、一年中花が咲き誇る美しい街でございまして、その特性を生かし、観光と農業を基幹産業として発展してまいりました。

特に観光につきましては、1988年に宮崎県の「宮崎・日南海岸リゾート構想」が、国のいわ

ゆる「リゾート法」の第1号承認を受け、官民一体となって、新たな国際級リゾートの整備に取り組んできた結果、日本有数の国際観光リゾート都市として成長してきております。

宮崎市のリゾートについてご紹介申し上げますと、二つの重点整備地区から構成されております。

一つは、市中心部から北部にかけての「国際海浜コンベンションリゾートゾーン」であります。

このゾーンの中心は、南北約10キロ、約134ヘクタールの国有林を活用し、地元企業を中心にした第3セクター方式で開発運営を行っております総合リゾート施設「シーガイア」でございます。

ギネスブックにも認定された世界最大の室内ウォーターパーク「オーシャンドーム」をはじめとするアミューズメント施設、9ヵ国語同時通訳が可能な5,000名収容の国際会議場を持つワールドコンベンションセンター「サミット」、高さ154m、45階層、全室から海を眺めることができる「ホテルオーシャン45」など、「シーガイア」は、2つのゴルフ場とテニスクラブ、5つの宿泊施設と4つの娯楽施設を併せ持つハイグレードのリゾートライフを満喫できる一大ビッグリゾートであります。

もう一つのリゾートゾーンは、「青島スポーツファミリーリゾートゾーン」で、既存の観光地「青島」を中心とする湾曲した長い海岸線と豊かな森林空間、日本で一番先に春の訪れを告げる花の祭典「みやざきフラワーフェスタ」が開催される「こどものくに」と、そして様々なスポーツの総合施設基地である宮崎県総合運動公園がございます。

海水浴やサーフィンなどのマリーナレジャーポイント、森林レクリエーションが楽しめる宮崎自然休養林、アウトドアライフが満喫できる宮崎白浜オートキャンプ場など、海や山での多彩な活動を通じて、子供から高齢者まであらゆる世代の人々のふれあい、交流が展開できるゾーンであります。

また、「こどものくに」と隣接した「青島パームビーチホテル」をもつ青島リゾートも地元企業を中心とした第3セクター方式で開発したものであります。

この2つのリゾートに共通して言えることは、いずれも地元資本である企業を中心に、第3セクター方式で開発を行ったことでもあります。

リゾート開発を、第3セクター方式にすることにより、地元雇用の促進や地場産業の育成が図られ、地域振興に大いに貢献しておりまして、単に私企業のみでのリゾート開発ではなく、21世紀を見据えた未来の街を建設しようという地域に根ざしたリゾート開発を行った結果、市の全体的な街づくり計画と整合性のとれたリゾート整備が実現できたと考えております。

リゾートの語源は「繰り返して訪れる」という意味ですが、リゾートは、「人々が何度も訪

れたくなるような街」であり、「人々が住んでみたくなる街」であると考えます。

そのためには、そこに住んでいる人々が、観光客に誇れるような安全で快適な美しい街であり、活力と魅力にあふれた街でなければなりません。

私は、リゾートの整備は、リゾートによって誘発される経済的社会的波及効果を最大限に活用した 21世紀にふさわしい活力と魅力に満ちた街づくりだと考えております。

そこで、これらのリゾートをセールスポイントとして、宮崎市の観光産業を育成していくための方案について、「コンベンションの誘致」、「交通アクセスの整備」、「リゾートとしてのまちづくり」の3つの視点からお話をいたしたいと思っております。

まず、コンベンションの誘致についてでございます。

宮崎市は、これらリゾート整備と平行して、コンベンションの誘致にもいち早く取り組んでまいりました。

現在、国内の大会はもとより、国際的な大会・会議は、年々増加の傾向にあり、平成10年度におきましては24件、延べ約12万人の参加実績がございます。地方都市としてはかなりの実績であると自負しております。特に、本年7月に日本で開催される主要国首脳会議(サミット)は、「九州・沖縄サミット」として開催され、宮崎市のシーガイアで外相会合が開催されます。

このことは、行政と民間が一丸となって誘致に取り組んだ成果ばかりでなく、これまで宮崎市で開催された国際会議・大会の実績を評価いただいたものでございまして、外相会合の宮崎開催により、本市が「国際コンベンション・リゾート都市」として、さらに世界に飛躍する原動力になるものと大いに期待しております。

また、宮崎市は、大会・会議ばかりでなく、スポーツイベントの開催やスポーツキャンプの誘致にも積極的に取り組んでおります。

これまで、温暖で快適な気候という優位性を生かして、日本プロ野球界の名門東京読売巨人軍の春季キャンプや、ヴェルディ川崎や横浜マリノスなどプロサッカーチームのキャンプが行われるほか、多くのアマチュアスポーツ団体の合宿等が行われております。現在、2002年に日本と韓国を会場に開催される「ワールドカップサッカー」大会の参加国代表チームのベースキャンプ地として立候補し、その誘致にも取り組んでいるところでございます。

しかしながら、コンベンションやスポーツキャンプの誘致につきましては、国内外を問わず、地域間競争が激化しておりますので、地域特性を生かした観光資源の創出や国際化にも対応した受入れ体制の充実が、ますます必要になっております。

そのようなことから、宮崎市としましては、新たな観光資源の開発として、温泉開発を進めてまいりました。現在、青島と市内中心部のホテル街で供用を開始し、健康・休養志向から、リゾート観光客やコンベンション参加者に大変好評を得ているところでございます。

また、宮崎は「人情の美」と評される温かい県民性を有し、観光客に対し、「もてなしの心（ホスピタリティ）」で接しております。この「もてなしの心」は多様化する観光客のニーズに的確に対応した、きめの細かいサービスを提供する上で必要であり、美しい景勝地や素晴らしい観光施設に劣らない重要な観光資源であると考えております。

次に、交通アクセスについてお話をさせていただきます。

まず、宮崎空港についてでございますが、宮崎市では、国際化を飛躍的に進めるため、現在、官民一体となった国際チャーター便の運航に取り組んでいるところでございます。年々実績が伸びているところでございまして、昨年度は67便が運行されております。昨年は、空港ターミナルビルに国際線関連施設も整ったところでございまして、近い将来、国際定期路線の就航が実現できるのではないかと期待いたしているところでございます。

また、海の玄関口であります宮崎港につきましては、1973年に策定された港湾計画に基づき、これまでに約1,350億円の巨費が投じられ、入り江の開削をはじめ、防波堤、係留施設などの整備が行われているところでございまして、今では宮崎県一の取扱貨物量を誇る港に発展いたしております。現在、「飛鳥」など国際観光船の寄港地としても活用されてございまして、先にお話しました「宮崎・日南海岸リゾート構想」の一環として、海洋性リゾートの核となるマリナーや人口ビーチの整備が進められているところでございます。

陸上交通につきましても、東九州の新しい動脈として期待されます東九州自動車道の建設とともに、市内におきましては、内環状線及び外環状線をはじめとする道路整備が着々と進んでいるところでございまして、観光産業の育成に不可欠な、陸・海・空の総合交通網の充実が図られているところでございます。

最後にリゾートとしてのまちづくりについて、お話いたします。

宮崎市では、現在、四季を通してまちに花のある「世界に誇れる花のまちづくり」に取り組んでいるところでございます。まち全体にリゾート都市の雰囲気が漂うような整備を進めるため、市内の主な公園に四季折々の草花を植栽するとともに、花のまちづくりコンクールなどの開催を通じた市民への普及・啓発を行うなど、市民と一体となってその推進に努めているところでございます。

また、今後とも増加が予想される外国からのお客様の受入れ強化のため、パンフレットやインターネット等を活用した案内情報を提供していくとともに、観光案内板等の整備充実を進めていきたいと考えております。

特に、道路につきましては、外国からのお客様をはじめ、すべての人が安全、快適でかつ安心して街を散策できるような標識を整備するため、歴史や文化、固有性を考慮しながら、その「愛称」について検討を進めているところでございます。

さらに、現在、市内で活躍しているボランティア通訳者を中心に、国際マナーや案内の心構え、観光施設等の案内方法などの研修を行うことにより、通訳ボランティアの育成も行っているところをごさいます、今後さらにその充実を図っていきたいと考えております。

なお、当然のことではございますが、高齢化や障害者の積極的な社会参加が進んでいることから、スロープの設置や障害者用トイレなどのバリアフリー化に向けた整備も進めているところでございます。

以上のように、ハード・ソフトの両面から魅力ある観光地づくりを目指した整備を進めているところをごさいます、今後は、さらに九州内の他の観光スポットと連携した観光ルートづくりをすすめ、一体的な観光地として発展させていきたいと考えております。

私は、今後も宮崎の豊かな自然と調和した観光リゾート環境の整備を進めるとともに、「もてなしの心」にあふれた国際観光リゾート都市の創造を図り、積極的に観光関連産業の育成に努めていく所存でございます。

以上で、私の発表を終わります。

○ 座 長

宮崎市の津村重光市長、ありがとうございます。次は、長崎市をお願いします。

[長崎]

○ 助役 内田進博

長崎市から参りました助役の内田です。本都市サミットで発言の場を頂き大変光栄に存じております。スライドの方もご覧いただきながら聞いて頂きたいと思っております。

まず、長崎の紹介をさせていただきます。

長崎の街にはいくつかの顔があります。

その一つは、1571年に他に先きがけて開港した歴史ある港町であるという顔です。

二つ目は、1889年に我が国ではじめて市制を施行した39都市の中の一つであるという顔です。

三つ目は、1945年8月9日午前11時2分、史上2番目に落とされた原子爆弾により、当時の人口の3分の2に当たる人たちが、亡くなったり傷ついたりした悲惨な体験をもつ都市であるということです。

これらの歴史の中で特筆しなければならないことは、長崎は天然の良港に恵まれ、古くからポルトガルや中国、オランダとの貿易が行われていたということ、特に、220年にわたる鎖国時

代に、日本で唯一中国とオランダに限り貿易港として開かれていた都市であるということです。

また、開国後もイギリスの商人グラバーなどが長崎を本拠として活躍しました。

このような、歴史性を持つ長崎には、今もなお当時を偲ばせる史跡や料理、言葉などがたくさん残っています。

カステラやコンペートなどのポルトガルのお菓子やガラス細工は南蛮貿易の名残を今に伝え、また唐人居敷跡や出島和蘭商館跡などは中国やオランダとの関係を物語っています。

長崎市ではこのような歴史的特性を活かしたまちづくり、長崎ならではの観光地づくりを目指しています。

環境と観光というと、まず思い浮かべるのは「美しい自然」を題材にしたエコツーリズムやグリーンツーリズムなどですが、文化遺産を環境資源として認識し、保存、活用し、将来へ引き継ぐための施策を展開することが長崎ならではの観光開発の取り組みであると考えます。

第一の施策は、文化遺産の保護です。

長崎は市内各所に史跡が残っており、そのような文化遺産の保護と活用が重要であると思うのです。

現在、国の内外から年間150万人ほどの観光客が訪れます、長崎市最大の観光施設であるグラバー園には国の重要指定文化財である「旧グラバー邸」「旧リンガー邸」「旧オルト邸」などをはじめ明治初期の洋風住宅が集積しています。

付近には、旧居留地私学歴史資料館として活用しております国指定重要文化財「東山手12番館」や現在「野口弥太郎記念美術館」として活用しております「旧長崎英国領事館」、また明治時代の銀行業務を物語る資料など展示している国指定重要文化財「旧香港上海銀行長崎支店記念館」など居留地の名残を今に伝える文化遺産がたくさん残っています。

この地区は1859年の鎖国後の開港に伴う外国人が居住した歴史的建造物や、当時の石垣や樹木等が数多く残っている「南山手・東山手地区」で、本市の異国情緒を伝える代表的な地区であり、国選定重要伝統的建造物群保存地区に指定されており、居留地としての貴重な財産を将来へ引き継ごうと文化財等の保護に努めているところでございます。

第二の施策として、文化遺産の復元を推進したいと思います。

日本が外国との交流を断っていた時代がありましたが、長崎だけはオランダと中国に限り貿易が許されていました。そして、出島という扇形の人工の島を作り、滞在中のオランダ人の居所としていました。その出島から日本で唯一西欧からの情報や貿易による品々が我国に入ってきていた訳ですが、国指定史跡になってはいるものの、出島自体は100年ほど前に港灣改良工事により埋め立てられ、市街地の発展とともにその美しい扇形は見られなくなってしまいました。

長崎市では出島を単に長崎市民のみの遺産ではなく、先人達の残してくれた全国民の貴重な財

産と考え、現在、19世紀初頭の出島を復元しようと事業を進めており、4月に西側部分の5棟を復元いたしました。今後はさらに他の建物や工作物等も復元していく計画であります。

この出島を復元することにより、日本とオランダの歴史的な関係を再認識すると共に、発掘による遺品などから当時の生活や風習などに理解が深められると期待しております。

今後は、出島と同じように重要な中国との交流の拠点であった、唐人屋敷跡についても整備を推進したいと考えています。

長崎と中国は地理的に近く、文化交流が盛んであったという歴史があります。長崎を代表するお祭り「長崎くんち」にはその影響がみられ、また「ペーロン」や「竜踊り」は唐人屋敷在留の唐人達により伝えられたといわれております。市内には国宝「崇福寺」や国指定重要文化財「興福寺」をはじめとした唐寺や中国渡来の僧の手による眼鏡橋など他にもたくさんの史跡が残っております。

特に、旧唐人屋敷内の天后堂などの建物は、当時の唐人達の生活振りや風習などを知る上で大変重要であり、これらを整備することは、出島復元に優るとも劣らない価値があると思います。

第三の施策として、文化遺産としての活用を推進します。

せっかく文化遺産の復元などをしても、それが活用されなくては何にもなりません。長崎のこれまでの文化遺産を体系化された観光モデルコースとして設定し、歩いてゆっくり観光してもらうような分かりやすいガイドマップを作成し、また案内板を整備、充実して観光客の皆さんに紹介したいと考えております。

第四の施策として、文化遺産保護思想の普及、啓発を図りたいと考えております。文化財は将来を含めた全ての人のものです。保護、整備して、次の世代へ引き継ぐことは、私達の大きな責任であります。全ての人が文化財を守ろうという意識がないと文化財は老朽化やゴミや落書きなどで傷んでしまいます。観光資源としての文化遺産の保全には十分な配慮が必要です。

以上、文化遺産を環境資源として認識した長崎の取り組み方について述べました。

また、長崎市内の観光地を巡る手段として、多くの観光客の皆様に市内電車を利用していただいております。長崎の市内電車は日本の各地からの車体が集まり、まるで電車の博物館といわれています。それ自体も観光資源となり得ますが、重要なことは大気汚染と無縁の環境にやさしい乗り物であるということです。

今後は、環境資源としての文化遺産を環境に優しい電車で結び、歩いて市内を巡る長崎ならではの観光地めぐりを更に推進してまいりたいと考えております。

ご静聴ありがとうございました。

○ 座 長

長崎市内田副市長の発表でした。次は、釜山広域市に発表をお願いします。

[釜山市]

○ 市長 安相英

皆様、こんにちは。

釜山広域市長、安相英と申します。

新しい千年を開く希望の21世紀を迎えての第4回アジア・太・平洋都市サミットが、韓国一の港湾都市釜山で開催されましたことを400万市民とともに嬉しく思う次第でございます。

本日開催されるこの意義深いイベントが、新しい千年におけるアジア・太平洋地域の各都市の繁栄に大きく資することを期待しまして「観光産業の育成と都市発展」について発表させていただきます。

20世紀は、高度経済成長と交通通信の発達により生活が豊かになり、余暇と観光に対する関心が非常に高まりました。

観光産業は、人生の喜びと生活の豊かさをもたらすばかりでなく、外貨獲得の効果と雇用創出の効果が大変高い、スモッグのない無公害産業であり、国民においては、文化と歴史に対する理解の幅を広め、和と結束を深める重要な産業として位置付けられております。

こうしたことから、21世紀は、世界的に国際観光客数が急激に増加し、観光産業が大きく発展する「観光の世紀」になるものと思われまます。

世界観光機関（WTO）の報告によりますと、1998年の全世界の国際観光客数は63,500万人で、2020年には約2.5倍の増加となり、156,000万人になるものと予想されております。

特に、東アジア・太平洋地域では、増加の見込みが高く、1998年の8,600万人から、2020年には4.6倍増の39,700万人になるものと考えられております。

釜山は、地理的にユーラシア大陸の太平洋側の関門で、朝鮮(韓)半島の東南端に位置する港湾都市です。釜山は、新石器時代の初期から出発した長い歴史の遺産とボクチョン洞古墳等、伽倻文化の歴史文化資源を多く保有しています。また、美しい山・海・川・温泉などの自然資源や、はっきりした四季の移り変わり、穏やかな海洋性気候など、観光に適した条件を備えております。

特に、約200kmにもおよぶ長い海岸線には、秀麗な自然景観と韓国一の海水浴場であるヘウンデ海水浴場をはじめ6か所の天然海水浴場があり、また、世界的にも有名な渡り鳥の飛来地にもなっております。

また、釜山は400万の市民を含めた1,000万人の釜山広域圏の市民が暮らしている大都市でもあります。

釜山港は世界第4位のコンテナ輸出入港であり、最近では、国際クルーズ船の寄港とクムガン(金剛)山遊覧船の就航などにより、国際クルーズ港としても脚光を浴びております。

そして、世界的に名声を博している釜山国際映画祭が毎年開催されており、2年後には36億アジア人の祭典である2002年アジア大会、日韓共催の2002年サッカー・ワールドカップが開催される都市として、世界的にも注目を集めております。

私は、このように多様かつ豊富な観光資源を備えている釜山を、「釜山固有の魅力的な観光都市」にし、「訪れてみたい、長く滞在したい文化観光都市」としての発展を追求していこうと思います。

このような文化観光都市を建設するために、都市発展の柱に観光インフラの開発を盛り込み、不便を感じさせない快適な都市に生れ変わるため努力しています。地下鉄、港湾背後道路建設への集中的な投資、都心循環道路網の拡充、都市環境改善等がその例です。また、固有文化の保存と独創性のある観光商品も開発しています。このような戦略は、出来る限り環境を守るという基本方針の下で、未来に向けて推進されております。

以上のような基本方針に従い、次のような細部推進戦略で釜山の観光産業を育成しています。では、推進戦略の詳細を具体的に紹介いたします。

第一に、観光インフラを積極的に拡充していきます。

釜山は、韓国の東南圏の中核となる都市であると同時に、韓国で一番綺麗な海岸観光コースである東南海岸観光ベルトの中心都市でもあります。また、地理的、経済的側面で環太平洋の拠点都市に相応しい国際的な観光都市にするために、釜山を三圏域に分け、特色のある観光開発を進めていきたいと考えています。この三圏域観光開発は、釜山沿海の島を橋でつなげる観光ベルト事業と連携して推進されています。

まず、東釜山圏では、二つの大型プロジェクトを推進しています。それは、国際自由観光団地である「東釜山グリーンシティ」と「センタムシティ」の開発です。

2008年竣工を目標に進めている「東釜山グリーンシティ」は、7.6km²規模の敷地を、1年中滞在できる滞在型の海洋休養施設として開発し、2005年竣工を目標に進めている「センタムシティ」には、1.2km²規模の敷地に、展示コンベンションセンター、総合情報・エンターテインメントなどの施設を並べる予定です。

次に、中釜山圏には、釜山港の既存の埠頭一帯を「国際港湾地区」として開発し、国際旅客ターミナル、マリナランドなどの施設を造成して、南区ヨンホ洞に「シーサイド」、ヨンド区トンサム洞に「海洋総合公園」の建築を進めています。このような施設は、海洋をテーマとする施設として、国家計画の一部に含まれており、2011年の完工を目標に推進されております。そして、民間レベルでは、中区中央洞に地上107階規模の超大型総合観光施設である「釜山ロッテワールド」を2005年竣工の目標で建設中です。

西釜山圏には、ノクサン工業団地、シンホ工業団地、科学産業団地と釜山の新空港及びキムへ

国際空港とを携ぐ国際物流・流通及び国際交流新都市を造成する予定で、生態公園、海上レジャー観光タウンなどもこれと並行して開発しています。

生態公園は、ナクドン江河口の渡り鳥飛来地を中心に造成し、海上レジャー観光タウンは、第2の釜山港として開発中のカドク島新港湾建設と連携して推進していきます。

海上橋梁観光ベルトは、この三つの観光圏と連携して建設中です。釜山の外郭地域の海に述べ46.3kmの海上橋六本を建設し、交通機能と共に海の観光名所にする計画です。この計画は、人間と美しい海の観光資源との間に一体感を感じさせる観光名所として、世界の人々に愛されることと思います。

六つの橋の一つである「釜山～コジェ間連結道路」は、海のクリーン海域と結ばれる28.3km（橋梁8.3km）規模の橋で、2007年の完工を目標に進めておりますが、今年3月、私がフランスを訪問したときに、フランスのGTM、SGE社など世界的な企業が開発に参加するという意思を示してきました。

またその橋とつながるカドク大橋(0.3km)、南港大橋(1.9km)、北港大橋(5.8km)、ミョンジ大橋(2.6km)などは、世界的な渡り鳥の飛来地である洛東江河口、太宗台、神仙台公園、釜山港等、釜山の観光資源と結ぶため、建設を推進中です。

また、この六本の海上橋梁の中で、総延長7.4km規模の「クァンアン大橋」を、クァンアンリ海水浴場を横切り、ヘウンデと都心を結ぶ橋梁として、1994年に着工、2002年の竣工を目標に建設しております。

このような観光インフラ事業は、国内投資家の大きな関心事になっております。本市では、観光インフラ事業開発に携わる外国投資家に対しては、税制優遇、行政支援など、多様かつ実質的なインセンティブを提供し、積極的な参加を促しております。

第二には、釜山固有の魅力ある観光商品を開発していきます。

開港以来130年の歴史を持つ国際港湾都市、釜山の魅力を開発し、観光商品化を進めていきます。

釜山歴史文化村を建設し、新石器時代の遺物などや、5000年の永い歴史を有し引き継がれている伝統文化を観光資源化します。

そして、すでに世界的な名声を博している釜山国際映画祭と釜山国際ロックフェスティバルなどの文化芸術イベントを、より発展させ有意義で楽しい観光ができるようにします。

また、釜山を、国際および国内クルーズ遊覧船の中心港として発展させていきます。今年の3月より、マレーシアのスタークルーズ社の豪華遊覧船が釜山に就航しており、朝鮮(韓)半島でもっとも美しいクムガン(金剛)山を観光できる遊覧船は、釜山から出港しております。

第三には、国際イベントの中心地としての釜山を発展させていきます。

2002年6月のワールドカップ・サッカー、2002年9月のアジア大会開催を機に、釜山は、21世紀の国際都市へと一層発展するため拍車をかけます。

特に、2001年に開館される釜山展示コンベンションセンターが、アジア・太平洋地域の国際展示コンベンションの活性化に寄与できるよう努力致します。

また、外国人が釜山を訪問する際に、不都合がないよう、国際航空路線と国際海上旅客路線などを継続して拡充させていきます。

そして、釜山は、姉妹都市及び行政協定都市との交流協力を強化し、開かれた都市、世界の中の釜山となるよう、世界の多くの都市との交流を一層拡大させる予定です。

第四には、環境にやさしい観光開発を推進しています。

環境は、一度破壊されると回復が難しいです。

釜山市では、地域開発をする際には、自然と人間が調和して共存する、環境にやさしい都市開発をコンセプトに取り入れて、これを推進しております。

環境にやさしい観光開発が、観光の魅力そのものを生かす道と認識し、すでに、1995年度に「緑の都市・釜山21宣言」を通じ、各種都市開発施策に反映させ推進しております。その結果、1999年度に環境団体が評価した資料には、韓国で最も環境にやさしい都市として、釜山が選ばれております。

ナクドン江河口の渡り鳥飛来地を「ラムサール地区」に指定し、環境生態蓄造性、環境影響評価の強化など、自然と調和のとれた環境にやさしい事業を続けていきます。

次は、アジア・太平洋都市間の観光産業発展にむけた提案事項について申し上げます。観光産業においては、都市と国家は相互依存的であるという点を勘案しますと、相互連携、協力を行うことによって相乗効果が発生し、より大きな発展を期待することができます。

アジア・太平洋都市の観光産業活性化のために、アジア・太平洋都市サミットの傘下に、参加国の都市の市長を委員とする「アジア・太平洋都市間観光振興機構」(Tourism Promotion Organization for the Asian-Pacific Cities、TPO)の創設を、この場をお借りして正式に提案します。

この機関を通じて、各会員都市は、公共及び民間部門が手をつないで会員都市間の相互利益のため「観光産業共同発展」と「環境に優しい観光産業開発」に関して論議し、協力出来るでしょう。

この機関は、アジア・太平洋都市サミットの参加都市間で、相互に観光に関する情報を提供し合い、アジア・太平洋都市が関わる観光博覧会の開催、アジア・太平洋都市サミット参加都市を紹介する共同観光広報物の作成、参加都市間のパッケージ観光商品の開発、観光産業振興のための地方税の減免など、観光と関連した様々な分野の事業を議論して推進するものになると

考えます。

また、環境にやさしい観光産業開発は、各都市固有の分野と都市間の協力分野に分けてお互い知識を共有し、情報を交換し、政策協力の場にもなると思います。

最後になりましたが、このような提案が積極的に検討され、アジア・太平洋都市間の友好的な交流が活発に展開され、観光産業が画期的に発展し、都市相互の経済的な利益の増大と、市民の生活の質が向上することを期待いたしまして、発表を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

〇 座長

ありがとうございます。釜山広域市安相英市長の発表でした。

では、最後に上海市、お願いします。

[上海市]

〇 副秘書長 殷一璀

私は、上海から参りました。

21世紀を目前に控えた歴史的時期に第4回アジア・太平洋都市サミットに参加し、我々が共に関心を寄せるテーマについて皆様と意見を交わすことができ、大変光栄に思います。

観光産業の発展は、関連産業の発展にも大きな牽引効果を持ち、また就業機会の増大にもプラスの効用があるため、各国の政府から重要視されています。まさにこのような認識の上に立ち、上海市政府も観光産業の発展を重視し、かつそのスピードアップを図ることを経済戦略の一つと位置づけています。ここ数年来、本市が実施してきた観光産業に対する育成策は主に以下のようなものです。

市政府は、上海市第9次五年計画及び2010年長期目標綱要策定の際、観光産業を第三次産業中の重点業種の一つであると明確化し、上海の新たな経済成長点の一つとして、その発展を加速し、それによって飲食業、交通、通信、商業等の関連産業の繁栄と発展を促進するよう求めました。1992年以降、上海から入国する旅行者は、8年連続して延べ100万人の大台を突破し、1999年の一年間に上海を訪れた外国人旅行者は延べ165万6800人、観光外貨収入13.64億ドル、旅行社が手配した上海市民の海外旅行は延べ10万3200人に達しました。また、国内旅行も盛んとなっています。1999年に上海市を訪れた国内の旅行者は延べ7,497万6000人、国内旅行により回収された人民元は719.33億元でした。本市の国民経済発展における観光産業の地位は更に上昇して、1999年における観光産業の成長額は、全市GDPの4.9%を占めています。第三次産業の中で

も、観光産業は活力に富み、持続的発展の望める新興の産業へと成長を遂げました。1999年現在、上海にある各種旅館は3000軒、ベッド数24万を数え、うち星級(星の数でランクを示したホテルをいう。主に中高級ホテル。)ホテル140軒、客室32,000以上となっています。国際旅行社は39社、うち5社が中国公民の海外旅行ツアーを組むことができ、11社が中国公民の海外旅行の代理業務を行っています。一方、国内旅行社は400社にのぼります。また民用航空、鉄道、バスなどによって、上海と国内外の約100都市をつなぐ発達した観光交通網が形成されています。現在、上海の航空市場に参入している内外の航空会社は40社以上に達し、上海浦東国際空港の一期工事が完了して使用が開始されたため、上海は市内に二つの国際空港を持つ中国最初の都市となりました。年間乗降客はのべ3000万人以上に達する見込みです。鉄道輸送の面では、一日上下80組の旅客列車が全国各地を往復し、さらに蘇州、無錫、南京、杭州、黄山などの観光都市を結ぶ観光専用列車も毎日出発しています。上海・寧波間および上海・杭州間の高速道路の開通により、上海と周辺の省や市とを結ぶ快適快速の長距離バス輸送も、日々増加しています。市内では、地下鉄、高架道路、モノレールの建設に伴い、立体的交通網が形成され、スピードアップが図られました。また、市内には、現在5万台のタクシーが営業しています。上海はシティツアーの付属機能をさらに強化し、観光の環境を整備するため、ソフト・ハードの両面から、観光情報センター、個人旅行者センター、観光人材養成センター、観光統計情報センター、観光バス車両センター、観光発展研究センターなど、都市ツアーサービス機能を持つ6つのセンターの建設を進めています。繁華街や観光ポイントには、すでに十数か所の観光インフォメーションセンターが設けられ、海外からの観光客に便利でスムーズなサービスを提供しています。

上海は中国経済の中心都市の一つであり、歴史文化都市でもあります。そして、経済、貿易、金融機能が集中した国際都市となるよう歩みを続けています。この特徴に鑑み、市政府は、上海の観光産業を都市型ツアーの方向に発展させることを打ち出しています。そして、特色ある個性的な観光商品をデザイン・開発し、都市の新景観や総合的サービス機能を十分に生かして、都市の景観・文化・商業を結合させたシティツアー産業の発展の枠組みを徐々に形成し、より多くの国内外の観光客を引きつけようとしています。都市建設の発展に伴い、上海では、この10年間に多くのランドマーク的建築が建設されました。例えば、東方明珠塔、南浦大橋、楊浦大橋、上海図書館、上海体育場、上海大劇院、上海博物館、上海サーカスシティなどで、いずれも新しい観光資源となっています。また、中華一のショッピング街・南京路には歩行者天国が設けられ、新しい観光名所として多数の観光客を引きつけています。

上海は、我が国近代史の縮図です。私どもは、上海独自の都市文化資源の発掘を積極的に奨励し、価値のある施設については補修工事を行い、新しく生まれ変わらせています。例えば、上

海子園の旧城門沿いの大通り一帯は、改築を行って観光ショッピングセンターとしたことにより、観光機能がさらに拡大し、環境も大幅に改善されました。現在、一日20万人の観光客が訪れています。また、同じ時期に改造したものが、青浦朱家角の明・清通り、上海竜華観光シティなどです。盧湾区馬当路にある韓国臨時政府跡地も、行政が資金と物力を投入して、そこに住んでいた人々に立ち退いてもらい、かつての姿に復元したため、現在では韓国の観光客が上海を訪れる際に必ず立ち寄る重要な観光スポットとなっています。本市では、郊外の観光資源についても計画を策定し、松江・余江風景区や青浦淀山湖風景区などを、国または市レベルの開発の重点と定め、近郊のリゾート地を充実させました。さらに上海が経済の中心であるという利点を生かして、近代工業ツアー、近代農業ツアーなどを開発し、内外の観光客の好評を得ています。

ここ数年、上海では国際ビジネスツアーや内外会議商談会ツアーなどの発展にも力を入れています。本市には、大型の会議場、展示会場が5か所あり、昨年、上海国際会議センターで「'99『フォーチュン』誌グローバルフォーラム上海大会」が開催されました。ミレニアムを迎えた今年、上海で予定されている国際会議は100以上にのぼります。また、本市は2010年の万国博覧会に立候補する予定です。国際都市にふさわしい世界的規模の博覧会を開催するため、目下超一流の博覧センターを建設中です。

観光産業の健やかな発展を保証し、観光商品のマクロ的指導の強化と協調管理促進のため、本市では上海市旅遊事業管理委員会を発足させ、副市長が主任を兼任しています。市の商業委員会、交通弁公室、そして園林局も委員会のメンバーです。これによって、上海の観光管理の権威は高まり、ヨコ方向の調整力が強化されました。また、観光産業とその他の部門との共同活動や相互促進も進みました。例えば、商業と観光を結合させ、観光の力を借りて小売市場の繁栄を促進し、また、商業部門がつくる「ショッピング天国」により、さらに多くの内外観光客を呼び込むことで、上海の観光産業は一段と飛躍し、より新しくよりスピーディな発展の段階を迎えることになりました。同時に、上海の各区・県の行政も、それぞれの観光促進・管理機構をつくり、観光商品の開発と宣伝の積極性を引き出しています。

上海では、観光産業の直接的従事者は、20万人以上に達しています。それらの人々の素質を高めるため、市では多額の資金を投入して教育に取り組み、比較的整備された訓練体系を形成しています。本市には観光関連の大学(学部)が54校あり、在校生は4万4千人にのぼります。観光行政管理部門が発行する管理職職務証明書を取得している人が4千人、『観光・対外国企業職員統一試験成績証明書』を取得しているのは11万5千人です。上海は人材育成を重視しており、観光産業全体の業務水準は毎年全国のトップクラスにあります。

目下策定中の、次世紀に向けた上海シティツアー発展戦略計画に示された目標では、本市は2015年までに、国際ビジネス、国際会議、展示会(博覧会を含む)、ショッピング、文化スポーツ

交流、シティツアーなどの観光イベントの主な目的地となり、一流の観光施設、利便な内外交通、特色ある都市文化、豊富な観光商品、快適で美しい環境、先進的な管理システム、優れたサービスを誇る太平洋西岸の都市文化ツアーの中心都市となることを目指しています。

最後に、上海市民に代わって、皆様が上海へ来られることを心から歓迎いたします。そして、今を感じ、上海を感じていただきたいと思います。

ありがとうございました。

○ 座長

上海市の殷一璀副市長、ありがとうございます。以上で9都市全部の事例発表が終わりました。これから自由討議を始めたいと思います。ご質問等がございましたらご発言をお願い致します。また、質問以外でも結構でございますので自由にご発言をしていただきたいと思います。オブザーバーとしてウラジオストックがお出でですが、何かございましたら最初にどうぞ。

○ サプリキン ウラジオストック副市長

コーヒーブレイクの後に自由討議をしては如何でしょうか。その間少し考えてみます。

○ 座長

他の都市の皆様方、何かございましたらどうぞ。熊本市さんどうぞ。

○ 三角 熊本市長

熊本市の三角です。

上海も中国随一の経済大国として君臨をされておりますけれども経済と観光と非常にいいお考えの中で発表を頂いて、関心を致して参考にさせていただきたいと思っております。スライドの中で、2階建ての路面電車が出てまいりましたけれども、全体の距離数と利用パーセント、或いは、その路面電車を誇りにされている点がございましたらお伺いしたいと思います。よろしくお願い致します。

○ 殷一璀 上海副秘書長

上海には、長い間、平面的な陸上交通手段しかございませんでした。過去 10年間で立体的な交通網が形成されました。まず、地下鉄を走らせました。都心の地下に地下鉄を走らせ、郊外には地上の電車を走らせました。そして、リング状の高架道路を作りました。1300万人という人口の交通問題解決のため、高架道路は重要です。当初、高架道路建設に多くの人が反対しまし

た。しかし、便利な交通手段と交通渋滞の解決ということで、結局建設に賛成するようになり
ました。高架道路以外に軽便鉄道を昨年10月から正式に運行しています。現在の運行距離は、1
0キロです。1次的に10区間、70キロほど設置する予定です。

○ 座長

ありがとうございます。他に質問ございませんか。釜山市、どうぞ。

○ 安相英 釜山市長

上海市が積極的な観光戦略を練っていますが、2010年の万国博覧会開催推進の担当機関と
現在の準備状況について聞かせて下さい。

○ 姚明宝 上海観光事業管理委員会副主任

私は、観光事業管理委員会から参りました。2010年世界万国博覧会について質問して下さい
ましたが、上海は、中国で一番大きい経済中心都市なので、中国中央政府の同意を得て2010年
にこの博覧会を上海で開催するために取組んでいます。

正式に世界博覧会を開催するためには、多くの都市が申し込んだ中から票決で決めることにな
っています。ですから、まだ、2010年の博覧会を上海で開催すると決まった訳ではなく、200
3年~2004年に最終的に開催都市が決定されます。上海は、正式に申込書を提出致しました。

最近6年の間、上海市の経済発展と社会発展は急激に加速化され、市政府 当局は、観光産業
とコンベンション産業の発展のため熱心に取組んでいます。もし、万国博覧会を上海で開催す
れば、上海の観光産業は大きな跳躍の機会を迎えることになると思いますので、私たちは、博
覧会の開催を希望しています。ここにいらっしゃる都市代表の皆様は、上海での世界万国博覧
会開催を積極的に指示して下さいようお願い申し上げます。

最近、上海では正式に世界万国博覧会業務推進委員会が発足しました。市長が責任者とな
り、副市長が副責任者となって、組織委員会も発足しました。

これで十分な答えになりましたでしょうか。ありがとうございます。

○ 座長

他は何かございませんか。

では、質問を考える間、一つ提案させていただきます。釜山市の安相英市長が、アジア・太平洋都
市間観光振興機構、TPOの創設を提案して下さいましたが、TPO発足のため、今後実務者会議
を通じて協議する必要があると理解しましたが、それでよろしいでしょうか。

○ 安相英 釜山市長

はい。都市間の観光振興のため、お互い情報を交換し、観光産業発展のため行政的・制度的優遇措置も取るべきです。また、必要であれば、都市間のパッケージツアーも一緒に考えるなど、地域の観光発展のためにこのような組織を提案しました。そして、来年の実務者会議で具体的に論議することを提案いたしました。

○ 座長

では、先ほど申し上げましたように実務者会議において協議を重ねていくということで当分科会の意見を統一させて頂きたいと存じますが、他の市長の皆様、そういうことでよろしいでしょうか。

それでは、分科会の結論として、そういう事にさせていただきます。

他に何かご意見やご質問ございませんか。

○ サビシン バンコク 行政調整副室長

私もこのアジア・太平洋地域のためのTPO発足に同意します。しかし、来年まで待つ必要がありますでしょうか。今年から作業を始めては如何でしょうか。観光産業は、議題の中でも一番重要なもので、福祉という面でも大切です。もし観光振興機構を設立するなら早く着手した方がいいと思います。来年からではなく、本会議が終り次第、実務グループを移動させるのは如何でしょうか。

皆様は、PATAについてご存じかどうか分かりませんが、PATAは、太平洋地域の観光産業を振興させるための機関です。ですから、PATAとTPOが協力するという方法も模索すべきです。今、アジアの20ヶ国の都市がこの機関で緊密な協力関係を結んでいる事を考慮し、TPOも重要ですが、PATAも規模の大きい機関であることを忘れてはなりません。既に多くの委員会が設置され、多くの文書も作成されています。PATAの会員になれば、太平洋地域の観光産業について多くの情報を得られます。ともかく私はTPOに同意します。また、出来る限り早く実務グループを発足させるのがいいと思います。

ワーキンググループの実務者会議を9月に開催するとしたら、TPOもe-mail アドレスを利用して、今から交流を始める方がいいと思います。

○ 座長

釜山市長、今のコメントは如何でしょうか。

○ 安相英 釜山市長

大切なことを二点ほど指摘して下さいました。第一には、直ぐに実務者会議を始めるべきだということですが、直ぐにでも実務者同士がコンタクトを取れるようにしたいです。また、E-mailを開発しようというバンコク市の提案がございましたが、全的に同意します。TPOの発足は今回決定し、具体的な内容については協議を重ねた後決定するというバンコク市のご提案にも同意します。

○ 座長

TPOに関して釜山市長が述べて下さいました。では、この辺で今日の結論として取りまとめたいと思います。如何でしょうか。賛成でしょうか。では、賛成ということにします。また、他に質問ございますか。

質問がなければ、自由討議を終えさせていただきます。

忌憚のない活発な討議ありがとうございました。

***** 休憩 *****

○ 座長

そろそろ時間です。会議を続開したいと思います。ウラジオストック代表、発言の準備は出来ましたでしょうか。

○ ウラジミル・サブリキン ウラジオストック副市長

各都市の発表、興味深く聞かせていただきました。関心のある内容もございました。特にTPO発足にはかなり興味があります。ロシアの遠東地方で一番大きな港都市のウラジオストックもTPOに参加したいと思います。出来れば実務者レベルの準備の段階から参加したいと思います。また、実務者の作業のため、実務担当グループの設置を提案します。そして、ウラジオストックでもこの会議を開催することを提案します。皆様がウラジオストックを訪問して下さいれば、特に、実務者代表として参加して下されば大歓迎です。最善を尽くしてTPO会議を準備したいと思います。

○ 座長

ありがとうございます。様々な提案をして下さいました。今後の協議において参考にさせて

頂きます。時間の関係もございますので私が第2-A分科会の会議結果についてご報告します。

第2-A分科会では、バンコク市、広州市、熊本市、マニラ市、宮崎市、鹿児島市、上海市、長崎市、釜山市、そして、オブザーバーとしてウラジオストック市、計10の都市が参加し、都市の環境と調和した観光産業の育成策について事例発表や討議をしました。

参加都市は各々歴史や人口規模などの差はありますが、今日の会議で認識を共にしたのは、観光産業は、経済のみならず社会のあらゆる分野に影響を及ぼす総合的な産業だという点でした。

そして、観光産業は、21世紀の基幹産業として一層発展が期待されるという点で観光の振興を都市創造の重要な政策的課題の一つとして位置付け、積極的に観光産業振興に臨むというのが共通的な立場でした。

バンコク市代表は、観光振興のため、便利な都市交通体制へと整備する必要があり、コンベンションの誘致を協力で推進しているということ述べて下さいました。様々な需要に対応するスポーツと歴史観光、そしてエコロジー・ツーリズム等の新しい観光商品開発を推進しているということも発表して下さいました。また、観光客の権利保障や安全保障の重要性についても述べて下さいました。

広州市代表は、観光産業の経済的構造強化のため、業種の枠を越えた、多様な観光資源の魅力を生かした観光商品の開発を指向し、距離的に近い都市であるホンコンやマカオと連携し、観光客を双方に移動させたり、観光資源の相互補完等を通じて広域観光発展を推進するという構想を発表して下さいました。

熊本市代表は、熊本城を築城400年の2007年を目処に復元する計画について発表して下さい、西部山岳地帯である金峰山一帯を自然体験、環境学習、健康増進、農業体験等の空間として整備する等、環境に配慮した観光地と観光商品 開発について紹介して下さいました。また、官民が一体になってコンベンションを誘致し、受入れ体制を強化するのに力を入れるという話もして下さいました。

マニラ市の発表では、16世紀の半ばから19世紀の初頭にかけてフィリピンとメキシコ間の貿易船として活躍したガレオン船を、東洋と西洋文化が融合された国際港湾都市マニラのイメージ作りの中心素材とし、これと関連した弘報と船舶復元等の推進計画について説明して下さいました。

宮崎市は、現地の企業を中心にシーガイア等のリゾート施設を作り、雇用の促進や現地産業の育成等、地域発展に貢献していると発表して下さいました。また、今年7月には、「九州沖縄サミット」の外相会合が開催される予定であるなど、コンベンション誘致にも力を入れ、国際観光リゾート都市として、ハード、ソフト両面で魅力のある観光地を作るために努力している

と説明して下さいました。

長崎市は、16世紀後半、日本で一番先に開港した港湾都市という歴史を活かし、数多くの文化遺産を観光資源として認識し、これを保護・復元し活用する観光施策を繰広げているとおっしゃいました。旧グラバー邸等の歴史的建造物の保存や日本とオランダの交流400周年を祈念した出島のオランダ人居住地復元等についても述べて下さいました。

釜山市代表は、世界的に有名な渡り鳥の飛来地を中心に生態公園を整備し、自然と人間が調和を成し、共存する観光事業プロジェクトについて話して下さいました。また、市内を三つの圏域に分けて滞在型休養施設や国際旅客ターミナル、海上橋梁などを建設する観光インフラの整備を公共投資と共に国内民間資本や海外資本を投入して推進するという計画に関して述べて下さいました。

上海市は、都市の景観や文化、歴史、商業などを結合させながら、都市的な特色のある観光商品を開発し、体系化することにより、国際会議や展示会、博覧会を開催し、快適で美しい都市環境を実現すると述べて下さいました。また、専門的な人材育成等を推進する都市型観光発展戦略についても発表して下さいました。

鹿児島市は、市街地の前に世界有数の活火山である桜島があり、青く美しい錦江湾があり、市内の至る所で温泉が湧き出る豊かな自然環境を活かした国際観光都市推進について紹介しました。また、海の環境保護をテーマにした鹿児島水族館の建設、火山めぐりヨット競技、長距離水泳大会開催についても発表させて頂きました。

このように、多くの都市から、環境を配慮した観光都市を作るためのプロジェクトなどが紹介されました。各都市の発表をまとめてみますと、各々の都市が持っている自然環境や歴史、文化遺産等を観光資源として活用し、その地域の特徴を活かした観光政策を推進し、業種の枠組みを越えた連携を取ることで、新しい観光分野を開発する必要があるという意見でした。

そして、自然、文化、歴史、街等を都市の環境を構成する重要な要素として把握し、これらとのバランスを上手く維持させながら観光都市を造成すべきで、それが大変重要という認識を持っていました。

この他にも、民間資本や海外資本を投入し、新しい観光資源を創出するという話や、コンベンションの誘致・開催のために取組んでいるという話もありました。

観光産業の育成や観光振興が都市造成の基本的な命題そのものという点でも認識を共にし、地域や国境の壁を越えた広域的な連携をとる必要があるという視点での発表が多くございました。

特に、今回の開催都市である釜山市は、アジア・太平洋都市の観光産業活性化のため、アジア・太平洋都市サミットの傘下に各会員都市の市長を委員とするアジア・太平洋都市間の観光振興機構(TPO)を創設するという提案をして下さいました。これについては、出来る限り早く

実務者会議を開き協議をするということで意見が一致しました。

各参加都市からの発表内容について2、3点質問が出まして、これに対して各々ご答弁を頂いたところでございます。

以上を私の座長としてのまとめにさせて頂きたいと存じます。最後になりましたが、大変活発なご意見や或いは適切な発表をして頂きました事に座長として心から感謝を申し上げたいと思います。皆様のご協力でスムーズに会議を進行することが出来ました。このことにつきましても感謝申し上げます。

これをもちまして、本分科会の自由討議を終了いたします。

ご協力ありがとうございました。(拍手)

～～～ 司 会 ～～～

都市代表の皆様のご積極的な協力により、ほぼ予定の時間通りに終わりました。座長を勤めて下さった鹿児島市の赤崎義則市長にもう一度拍手をお願いします。第2-A分科会を終えさせて頂きます。

○ バンコク市 行政調整室副室長 サビシン

共同宣言文を調整する時間があまりないのですが、本分科会で一部修正されるべきなので提案します。

草案は既に配布致しました。ご覧になればお分かり頂けると思いますが、ここにTPOに関する内容があります。宣言文にTPOに関する事項を入れるべきだと思います。私が釜山共同宣言文にTPOに関する事項を含めて修正してみました。これを草案と比べて下さい。既に変更されたものがスライドに出てますが、(1)、(2)、(3)の文章は飛ばして一番目の事項である(1)をご覧になれば、釜山は「我々が新しい千年を迎える時点で、各都市は、都市間の連絡網を活用し、協力を増進させる」と書いてありますが、次のように付け加えてみました。

「新しい千年を迎えて会員都市は、ネットワークを活用し協力を増大させ、様々な分野で協力する。交易、投資マーケティング、情報技術、文化遺産、そして環境」というのが付け加えられ、二つ目には「各都市は情報技術を交流させ、持続可能な開発のため先進国と途上国間の交流を増進する」

そして、ここに、TPOに関する事項を付け加えました。皆様が同意して下されば、これを加えたいと思います。TPOネットワークが今年からコンタクトを取り合い新しいTPOを創設するための作業を始めるという内容を皆様の同意の下で付け加えたいと思います。「そして、実務レベルで会議が継続され、アジア・太平洋地域都市サミット会議で合意した事項を推進する」

となっています。2001年に福岡で会議を開催するという内容もあります。

(1) (2) (3) 項を追加したいです。同意して下さるなら、他の分科会にもこの資料を配布し、宣言文に加えたいと思います。釜山宣言文を全体会議で扱う前に他の分科会にもこれを配って修正するようにしたいと思います。

～～ 司 会 ～～～

バンコク市の提案について昼食の時間に詳しく協議し、その内容を鹿児島市長が全体会議で提案・発表するのは如何でしょうか。

○ 赤崎義則 鹿児島市長

私の責任で進めたのは、分科会でございます。今、バンコク市の提案は、共同宣言文の内容なので私の責任外だと思います。共同宣言文の議長の責任において処理されるのが妥当だと思います。分科会として「実務会議でTPO創設について協議する」というところまでが私の責任です。後は、共同宣言文ですから、別途、共同宣言文の基礎委員会なり、そういう所で協議されるべきだと思います。

共同宣言文は、一つの分科会で扱うべき問題ではありません。バンコク市からのご提案は非常にいい話ではありますが、実務レベルの準備委員会を直ぐにでも発足させたいと言うことで、主催側である釜山市の提案ですが、今まで全体的な事務局を勤めてきた福岡市がここにはないので、福岡市を含めて全体会議の中で取りまとめるべき問題だと思います。この場で論じるような事ではないと思います。

～～ 司 会 ～～～

全体会議の際にバンコク市の修正案をバンコク市が提案して下さることにして、本分科会はこれで終了させていただきます。賛成の方は拍手をお願いします。では、これで終わらせていただきます。